

埼玉大学教育学部附属中学校

～ 学校行事と関連づけた総合的な学習の時間による深い学びの実現 ～

本校では、総合的な学習の時間を学校行事と関連づけて深い学びを実現させている。主には2年生で実施する志賀高原林間学校、3年生で実施する京都・奈良修学旅行の中に探究的な学習を位置づけ、教員が提示するテーマに基づいて、生徒が個々の学習課題を設定し、事前学習、現地学習、事後学習といった流れで、学びを深めていく。そのためには、次の3つの工夫をしている。

- ①宿泊学習の中の1日を6時間扱いの授業日と位置づけ、探究的な学習を展開する。(授業時数の確保)
- ②生徒に現地の方々との深く関わる体験場所を提供する。(旅行者と連携した体験活動の充実)
- ③長期に渡る探究的な学習過程を踏まえた深い学びを展開する。(主体的・対話的で深い学びの実現)

【2年生の実践】志賀プロジェクト「埼玉県と長野県を比べて私自身で考える」

コース一覧：自然Ⅰ（動物・昆虫）自然Ⅱ（植物）歴史Ⅰ（古代～中世）歴史Ⅱ（近代～現代）
産業（農業）文化Ⅰ（地域文化）文化Ⅱ（長野五輪）

各自で選択したコースと関連づけて埼玉県と長野県を比べながら課題を設定し、体験活動を通して考えたことをまとめ、クラス内発表会を行った後、優れた発表を取り上げ、全体発表会を行った。



歴史Ⅱ（松代の防空壕見学）



自然Ⅰ（ワサビの採集）



地域文化（湯田中温泉の清掃）



発表のようす

【3年生の実践】日本文化探究講座「日本人としての私を考える」

テーマ例：「京ちょうちは現在までなぜ受け継がれてきたのか」「京印章マニアになろう！」

「華道を通し、先人たちが築き上げてきたものと考え方を探る」など（全36テーマ）

京都のさまざまな文化から課題を設定し、事前学習を通して学びを深めた後に、その文化を体験しながら「日本人としての私」について考えを深めた。発表会に保護者も招待し、行動班ごとにその成果を発表した。



京ちょうちん絵付け体験



華道体験



京印章づくり



保護者を招待して発表会

宿泊行事と関連付けた総合的な学習の時間を始めてから6年が経過した。この取組を通して、教科書では学ぶことができない課題に対して、多くの生徒が主体的に取り組み、長期的な学習計画の中で仲間や地元の方々と関わりながら深い学びを実現している。昨年度は、地元紙「烏丸経済新聞」のネットニュースにも取り上げられ、「京都の修学旅行に『新風』と紹介された。今後、本校での授業実践は、生徒の深い学びを実現するとともに、先導的な取組として展開できるものと考え。

2016年9月30日付【<https://karasuma.keizai.biz/headline/2667/>】→

京都の修学旅行に「新風」 地元ガイドが旅行本には載らない京都紹介

2016年09月30日

ツイート シェア 128 G+

京都市内に9月27日、埼玉大学教育学部附属中学校3年生174人が修学旅行に訪れた。

錦市場の「例儀」社長から直接錦市場について話を聞く

錦市場をテーマとしたコースの生徒。ガイドは京都専門の日本画ガイドをしている和田万三代さん

同校教諭の岸本航司さんによると、2年生後期から同校で「日本文化探究講

習真を拡大

【連絡先】 〒336-0021 埼玉県さいたま市南区别所4-2-5
電話: 048-862-2214(代表) FAX:048-865-6484

(副校長) 大井 敏彰
E-mail:sujhs@gr.saitama-u.ac.jp